

市民工学キャリアアッププログラム

2012年前期 第2回

神戸大・市民工学科, 市民工学専攻

運営体制

- 実施日：毎週水曜日5限(17:00～18:30)
- 開催場所：基本的にC2-201
- スーパーバイザー教員：芥川，小池，加藤，河井，三木，齋藤，桑野，内山(世話役)
- 連絡・問い合わせ先：内山(1W-308, uchiyama@harbor.kobe-u.ac.jp, 078-803-6071)
- プログラムwiki： <http://coast.dce.kobe-u.ac.jp/?CareerUp>

本プログラムの趣旨と活動内容

- 就活，就活力向上に向けて，最初の取っ掛かりの場を提供。
 - 当初のみ教員主導，**徐々に学生主体の運営へ。**
 - 討論（ディベート／ディスカッション）の実施。
 - 就活経験者の報告会と質疑。
 - 参加者相互の情報交換。
 - 活動内容の記録（専用Wiki）。
-
- 学科サポート：スーパーバイザー教員の参加，プログラムの活動に関わる資材等の提供（コピー，プロジェクト，PCなど）
 - 今後の活動内容はプログラム参加者が主体的に提案する。

プログラムの進め方

- スーパーバイザー教員からの冒頭コメント
 - 就活経験者の講話とQ&A
 - 討論
 - 次週予告
 - ラップアップ
-
- 今回(第2回)は、冒頭でガイダンス欠席者のサインアップと自己紹介を行う。
 - デイベート進め方についてのレクチャーを行う。
 - 終了後、懇親会？

ディベート／ディスカッション（討論）

- 進行役（司会・書記各1名）が前週に指定した議題を討論。
- 議題は時事問題，政策問題など一般的な話題とする。
- ディベート参加者（肯定派3名＋否定派3名）は，予告を受けて背景等について調査し，**立論**する。
- 立論後，互いに**質疑応答**を行い，最後に議論を深めるための**反駁**を行う。相手の議論に対して反駁しない場合は，認めたことになる。
- ディベート中（質疑・反駁）には若干の**作戦タイム**を認める。
- 最後に**ジャッジ**が客観的に評価し，**進行役**が総括する。
- 書記は議事を記録し，資料とともにWikiにアップする。

討論のフォーマット(1)

肯定側

肯定側立論(5分)

肯定側質疑(5分)

肯定側反駁(5分)

否定側

否定側質疑(5分)

否定側立論(5分)

否定側反駁(5分)

ジャッジによる評価, 進行による総括(5分)

立論

立論とは、自分たちの立場や、それを支持する根拠を出すことで、具体的には、肯定側であれば論題を支持することで起こる利点(メリット)を説明し、否定側であれば論題を支持することで起こる不利益(デメリット)を説明する。立論の段階で投票理由になるような議論を全て出すというのが、ディベートにおける大切なルールである。

立論を担当するディベーターは、質疑に対する応答者として質問に答える。

討論のフォーマット(2)

肯定側

肯定側立論(5分)

肯定側質疑(5分)

肯定側反駁(5分)

否定側

否定側質疑(5分)

否定側立論(5分)

否定側反駁(5分)

ジャッジによる評価, 進行による総括(5分)

質疑

質疑では相手の立論の内容について質問を行う。ディベートの中で唯一、相手のディベーターとやり取りを行う場面である。質疑の役割は、相手の議論で分からなかった部分を確認したり、議論の前提を問いただしたりすることで、今後の反論に役立てることである。相手に対して反論を行うパートではない(質疑でのやりとりは立論の補足であり、その後のスピーチで言及されることで有効に評価される)ので、注意する必要がある。

討論のフォーマット(3)

肯定側

肯定側立論(5分)

肯定側質疑(5分)

肯定側反駁(5分)

否定側

否定側質疑(5分)

否定側立論(5分)

否定側反駁(5分)

ジャッジによる評価, 進行による総括(5分)

反駁

反駁ではまず、相手の議論に反論する。相手の議論を攻撃したり、相手の反論に再反論したり、争点について細かな議論を戦わせることが中心となる。

次いで、それまでのスピーチを総括し、自分たちの議論が相手を上回っていることを説明し、まとめる。どのような議論があったかを振り返り、相手の議論と自分の議論を比べて優れている理由を説明する。

アカデミックディベートの典型例

➤ ストック・イシュー型（ディベートの基本形）

以下の5点について討論する。

1. 現状の問題の深刻性
2. 現状の問題の内因性
3. 計画の問題解決性
4. 計画の実行可能性
5. メリットの対デメリット優位性

➤ ポリシー・メイキング型

論点を「メリットの対デメリット優位性」に絞って討論する。問題のあるなしにかかわらず、とりあえずプランを実行した場合にメリットとデメリットのどちらが上回るかを議論する。問題の深刻性と内因性は考慮されない。また、計画の問題解決性と実行可能性も主たる論点となることはほとんどない。

質疑(尋問)の仕方

➤ 質疑(尋問)にあたっての留意点

1. 自己の意見を言わず、質問に徹する。
2. YES/NOのように短く答えられるように質問する。
3. たたみかけるように質問する。

➤ 尋問時に効果的な3つのステップ

1. **理解のステップ**:相手の立論を明確に理解する。
2. **ジャブのステップ**:反駁での攻め所を見いだす。
3. **攻めのステップ**:相手から自己に有利な情報を引き出して、反駁への足がかりとする。

一般に尋問というと、相手から有利な情報を引き出す「攻め」にばかりに気が行きがちだが、まずは相手の立論の不明点をなくし、攻め所を確認すること。急いては事を仕損じる。

反駁の仕方

➤ 反駁における有効な反論の仕方とは？

相手の主張に反論するには、以下の5通りが考えられる。

1. 相手の根拠の矛盾点や問題点を指摘して、その主張は成り立たないと主張する。
2. 別の根拠を持ち出して、相手の主張は誤りであると主張する。
3. 情報や証拠の不足を指摘して、相手の主張は成り立たないと主張する。
4. 相手の主張は認めるが、その重要性がとるに足らないと主張する。
5. 相手の主張は認めるが、現状の改良で同じ効果が得られると主張する。

ジャッジの心得

- 論題への偏見を捨てる。あくまで中立の立場。
 - デイベーターへの個人的感情を捨てる。
 - プレゼンテーション能力のみを判定の根拠としない。
 - 判定しようとする議題に対する内容だけを根拠とする。
 - ルール違反に厳しく対処する。
-
- ❖ ディベートにおける主なルール
 1. 主張を相手とジャッジに正確に伝える。
 2. 時間を順守する。
 3. 主張には根拠がなければならない。
 4. 根拠となる証拠は正しく用いなければいけない(捏造はだめ)
 5. 反駁で新しい議論を持ちだしてはならない(立論のみ)。

今週の討論内容

【議題】 消費税を10%に増税する. 肯定:賛成, 否定:反対

1. 政府はH23.6に社会保障制度の抜本改革と、それに必要な財源を確保するための消費税を含む税制抜本改革の基本方針として「社会保障・税一体改革成案」を決定. H24.2にはそれを具体化した「**社会保障・税一体改革大綱**」を閣議決定した.
2. 各国の消費税(に相当する間接税)率:イギリス17.5%, フランス19.6%, スウェーデン25%, アメリカ(CA)9.25%. 食品など免税項目は? 直接税率は?
3. 2010年度の日本国政府の歳入は、税収37兆3960億円, 国債発行44兆3030億円, 税外収入等10兆6002億円であった. しかも、累積した日本の赤字国債額は、対GDP比で世界最大である. 日本の財政危機がギリシア危機などと同一視されないのは、日本国債を買い支えてきたのは主に日本国民による貯蓄であり、日本国債の95パーセントは日本国内で保有されているからである. しかし、2020年頃にはこの構造も行き詰まるとの予測もある.

今週の討論内容

【議題】 消費税を10%に増税する. 肯定:賛成, 否定:反対

4. 想定されるメリット:

財政再建の進展, 社会保障制度の拡充(格差の解消など)...

5. 想定されるデメリット:

景気後退, 行政改革の停滞, 低所得者層家計の圧迫...

6. 政局化・・・自民党は4/23, 消費税率引き上げ関連法案を巡り、全面的な審議拒否の方針を事実上転換したのは、野田首相が前田国土交通相と田中防衛相の更迭に応じないことだけを理由に重要法案の審議を拒否しても、世論の理解を得ることは難しいと判断したためだ(報道より)。